

※各欄の数字は、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答された割合(%)です。

1	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
		21年度	89.6	88.2	83.8
22年度	86.2	87	95.1		
23年度	87.0	88.2	94.1		
24年度	89.2	89.1	97.1		
25年度	87.5	86.4	100.0		
26年度	85.5	83.6	97.3		
27年度	85.9	85.5	92.3		
28年度	86.5	85.0	90.9		
29年度	88.8	83.7	99.0		

授業の内容がよく分かる。

【考察】「子ども」の数値や「職員」の数値は改善されている。授業改善に取り組んできた成果が少しずつ表れている。しかし、保護者の数値は微減していることをみると、今まで以上に授業内容を充実してほしいとの願いを感ずる。(数値目標90%以上)

2	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
		21年度	81.2	62.8	41.7
22年度	76.3	65.4	46.3		
23年度	79.2	66.2	51.4		
24年度	79.5	64.3	63.9		
25年度	79.7	61.0	65.7		
26年度	78.1	61.1	73.0		
27年度	78.1	63.9	59.0		
28年度	76.2	63.0	66.7		
29年度	76.2	68.4	68.0		

分からないことは、先生に聞いたり、自分で調べたりして解決している。

【考察】本校の児童が苦手とするところである。個別指導の時間をとっているものの自分から積極的に聞こうとする姿が育っていない。粘り強く学習に取り組む姿勢を身に付けさせたい。

3	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
		21年度	90.8	95.7	97.2
22年度	91.2	94.8	97.6		
23年度	92.1	97.1	94.4		
24年度	93.9	96.1	97.4		
25年度	94.0	96.0	92.1		
26年度	93.4	96.6	100.0		
27年度	92.4	96.1	97.4		
28年度	92.0	95.0	100.0		
29年度	90.7	92.6	100.0		

学校に楽しく通っている。

【考察】90%以上の数値は保持されている。しかし、学年や学級による数値の差があることも事実である。その原因が何にあるのか、また、楽しくないと思う要因は何かということ各学年により分析していくとともに、保護者とも協力をし、児童の思いに寄り添った指導をしていきたい。(数値目標95%以上)

4	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
		21年度	95.8	94.2	91.4
22年度	95.2	96.3	97.6		
23年度	95.9	96.8	97.2		
24年度	97.1	96.1	92.3		
25年度	95.0	97.7	97.1		
26年度	95.6	97.3	100.0		
27年度	95.3	97.4	87.2		
28年度	95.1	95.8	100.0		
29年度	95.3	95.5	99.0		

友達と仲よくしている。

【考察】「子ども」「保護者」「職員」ともに昨年度同様に高い割合となっている。しかし、保護者の数値が年々微減している点は気になる。対話活動を通して、他人を大切にしようとする気持ちを培っていきたい。

5	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
	まわりの人にあいさつをしている。	21年度	89.1	84.3	14.7
		22年度	89.1	80.5	36.6
		23年度	92.7	85.5	59.5
		24年度	91.6	83.6	59.0
		25年度	89.9	84.5	62.9
		26年度	89.0	85.6	70.0
		27年度	88.4	85.0	66.7
		28年度	90.8	84.7	76.5
		29年度	89.5	84.5	63.0
【考察】「子ども」のあいさつへの意識は高まってきている。しかし、「保護者」「職員」の評価が低い。これは、児童はあいさつをきちんとしている意識はあるが、自分から率先してしたり、元気よくかえしたりしていないのが原因の一つと考えられる。高学年を中心とした取り組みを続けていきたい。(数値目標90%以上)					
6	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
	わたしには、よいところがある	21年度	※	※	※
		22年度	※	※	※
		23年度	※	※	※
		24年度	※	※	※
		25年度	※	※	※
		26年度	※	※	※
		27年度	※	※	※
		28年度	81.4	※	※
		29年度	82.9	※	※
【考察】自分のよい点に気付いていない児童や自信をもていない児童への指導や助言が必要である。児童は周囲(他人)からの評価にとっても敏感であるため、励まし認めていくことが大切である。これは、学校だけでなく、保護者の協力も必要である。家庭や学校で自分は必要とされているという自信をもたせた					
7	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
	学級には、おたがいにルールを守り、協力する雰囲気がある。	21年度	81.6	91	78.8
		22年度	82.8	84.8	87.8
		23年度	83.1	86.1	86.5
		24年度	88.4	84.6	94.9
		25年度	85.2	90.3	91.4
		26年度	80.0	90.8	89.5
		27年度	84.5	94.0	82.1
		28年度	84.3	91.7	94.1
		29年度	80.7	88.7	86.0
【考察】「子ども」「保護者」「職員」ともに評価が下がっている。本年度実施している対話活動では、お互いを認め合うことができる人間関係作りを目指しているため、学級の中で協力をしていこうとする雰囲気作りにもつなげていきたい。					
8	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
	子どもたちは、自分の将来に対して、夢や希望をもっている。	21年度	88.9	77.1	77.1
		22年度	87.1	79.3	82.9
		23年度	87.0	77.2	91.2
		24年度	90.7	79.6	100.0
		25年度	90.5	80.3	94.3
		26年度	88.8	79.7	94.4
		27年度	84.5	94.0	82.1
		28年度	87.3	79.1	90.9
		29年度	84.8	80.0	84.0
【考察】昨年度よりもさらに数値が下がっている。子どもたちに夢や希望を育むことができるような働きかけを心がけたい。また、職員が今まで以上に子どもたちと触れ合う時間を確保し、子どもの話に耳を傾ける中で、子ども一人ひとりを大切にしたい指導を心がけることも必要であると感じる。(数値目標90%以上)					
9	質問内容	年度	子ども	保護者	職員
	子どもたちには、学校に相談できる人がいる。	21年度	84	77.9	91.1
		22年度	82.9	71.1	87.8
		23年度	83.6	70.8	94.3
		24年度	85.6	71.4	97.3
		25年度	85.6	81.1	85.7
		26年度	86.3	77.4	94.7
		27年度	89.9	82.8	94.9
		28年度	85.3	77.6	94.1
		29年度	85.8	78.3	83.0
【考察】昨年同様に「子ども」は相談するのが恥ずかしいとの意見もあるが、それだけでなく、誰に・どのように相談していいのかわからないことも考えられる。「保護者」からは、子ども同士の相談だけでなく、教職員には今以上に積極的に相談にのってほしいとの要望も受け止められる。スクールカウンセラーの相談体制も整っているため、教職員への相談だけでなくSCへの相談も充実させていき					

質問内容		年度	子ども	保護者	職員
10	今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。(4, 5, 6年生のみ回答)	21年度	※	※	※
		22年度	71.3	※	※
		23年度	66.0	※	※
		24年度	73.9	※	※
		25年度	89.5	※	※
		26年度	88.2	※	※
		27年度	86.6	※	※
		28年度	87.6	※	※
		29年度	82.6	※	※
		【考察】本年度も全国学力状況調査で、6年生の地域への関心度や参加率は高い。地域主催の活動への参加にとどまらず、生活科や総合的な学習の時間をはじめとした諸教科学習にて地域への参画意識が定着してきたと思われる。			

質問内容		年度	子ども	保護者	職員
11	北小が目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。	21年度	※	69.1	※
		22年度	※	74.9	※
		23年度	※	79.4	※
		24年度	※	79.7	※
		25年度	※	80.7	※
		26年度	※	78.2	※
		27年度	※	81.4	※
		28年度	※	73.8	※
		29年度	※	82.9	※
		【考察】昨年度の反省から、保護者のニーズに応えることができる学校だより等の作成に努力をしてきた。文書だけでの報告だけでなく、各学年からも必要に応じ、保護者説明をする場(懇談会等)をつかい、学校の様子を適宜伝えることができた成果であると思う。			

質問内容		年度	子ども	保護者	職員
12	北小の先生は、子どものことを理解して指導にあたっている。	21年度	※	91.2	※
		22年度	※	91.9	※
		23年度	※	95.6	※
		24年度	※	91.9	※
		25年度	※	94.5	※
		26年度	※	90.9	※
		27年度	※	94.5	※
		28年度	※	89.9	※
		29年度	※	94.0	※
		【考察】児童からの要望だけでなく、保護者からの要望(情報)を大切にしていきたいことが、高い数値の評価となったと感じる。今後も、学校の様子と家庭での様子の情報交換を密にしていくことで、子どもの個性や特性を理解し、学校生活での指導にいかしたい。			

		年度	子ども
13	わたしは、必読図書をすべて読み終えた。(数値目標85%以上)	23年度	80.2
		24年度	84.7
		25年度	93.8
		26年度	93.9
		27年度	87.0
		28年度	68.5
		29年度	82.0

【考察】
昨年度よりも、早いペースで完読が進んでいる。年間30,000冊の目標も達成可能である。

※11月末
※10月末
※10月末
※10月末

職員		年度	職員
14	異校種間で子ども同士の交流を行った。〈幼保小中の連携〉	23年度	46.9
		24年度	56.4
		25年度	22.0
		26年度	30.0
		27年度	48.7
		28年度	77.1
		29年度	20.0

【考察】
毎年、近隣校との交流や特別支援学校との交流、幼稚園や保育園等との交流を行っている。今年は、これからの時期に回数が増えていくものと思われる。

職員		年度	職員
15	北小では、個に応じたきめ細やかな支援・指導を行っている。	23年度	94.4
		24年度	100.0
		25年度	96.0
		26年度	89.5
		27年度	97.4
		28年度	93.9
		29年度	97.0

【考察】
児童理解に努めようとする姿勢が数字から読み取られる。また、学年間での協力体制もできている。

職員		年度	職員
16	子どもたちは、地域の人たちと、学校や地域で関わっている	23年度	※
		24年度	※
		25年度	※
		26年度	※
		27年度	※
		28年度	88.2
		29年度	79.0

【考察】
裸祭りの参加者や浜垢離の参加者が毎年減少している。学校では、生活科や総合的な学習で地域の協力を得られるよう、今後お願いをして

児童		年度	子ども
17	外国語の授業が楽しい	23年度	※
		24年度	※
		25年度	※
		26年度	※
		27年度	※
		28年度	88.0
		29年度	86.5

【考察】
外国語の授業については、来年度以降各学年とも授業数が増加する。一層、充実した内容に努める必要がある。

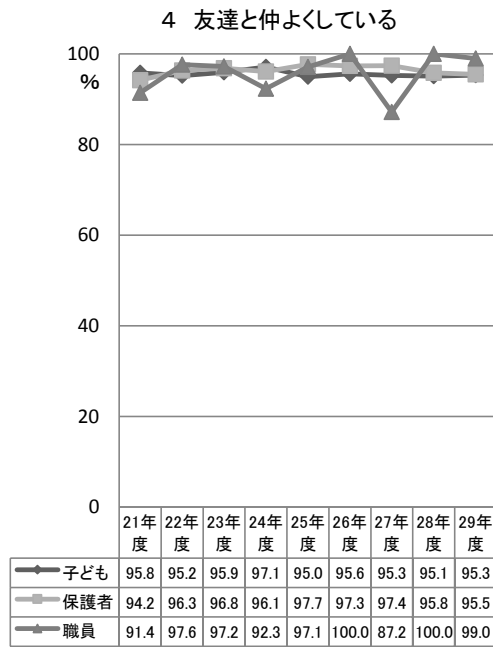
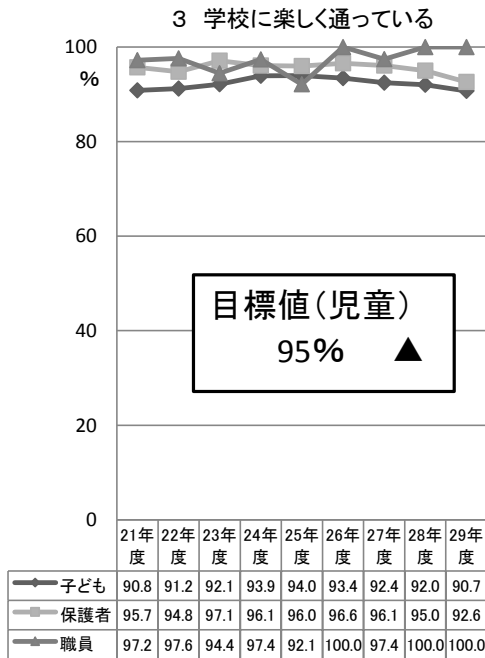
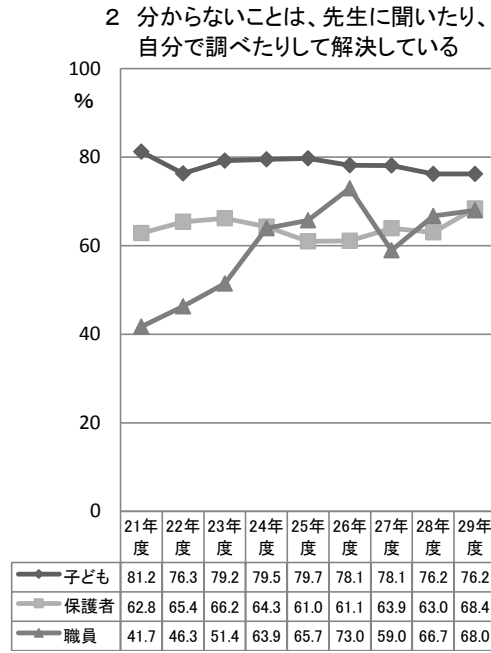
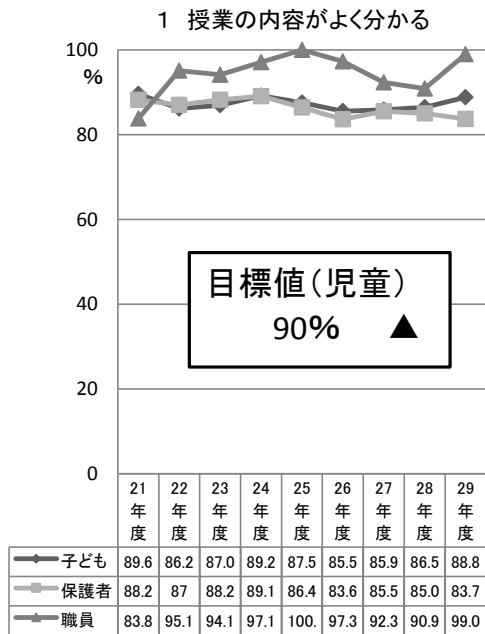
児童		年度	職員
18	中学校の学習や生活を楽しみにしている (6年生のみ)	23年度	※
		24年度	※
		25年度	※
		26年度	※
		27年度	※
		28年度	86.9
		29年度	85.8

【考察】
「中1ギャップ」を少しでもなくすため、中学校との交流や情報交換を事前に行っていき

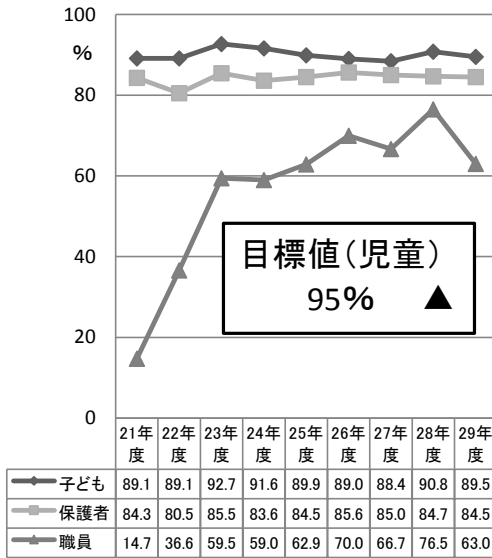
親		年度	保護者
19	あなたは、お子さんと日常的に会話をしている	23年度	※
		24年度	※
		25年度	※
		26年度	※
		27年度	※
		28年度	97.3
		29年度	95.1

【考察】
高い数値である。家庭内で、子どもの話をよく聞いていただくことは、自己肯定感を高めることにもつながると考えられる。

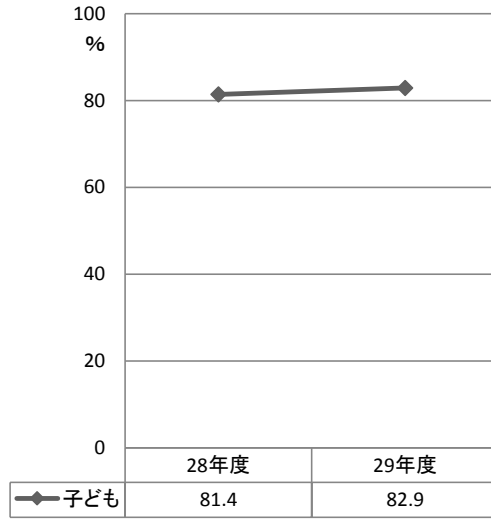
※各欄の数字は、「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答された割合(%)です。



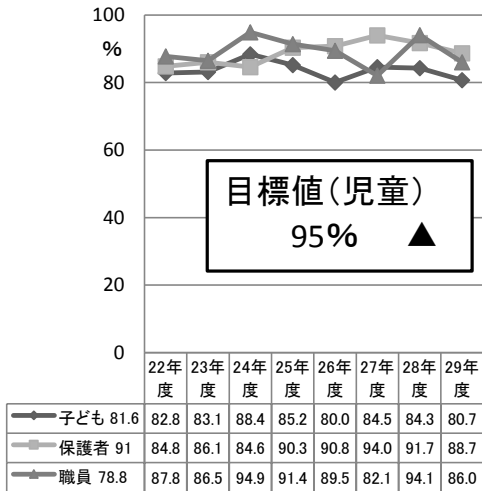
5 まわりの人にあいさつをしている



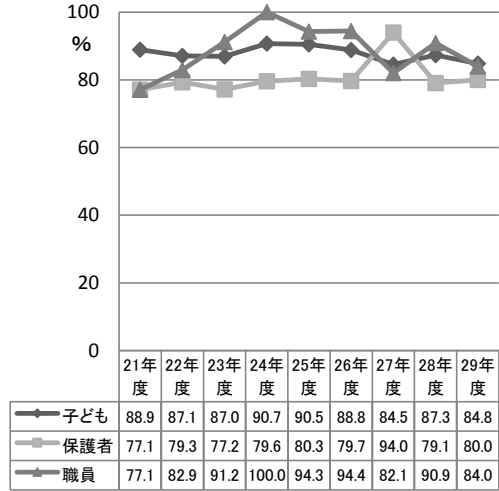
6 わたしには、よいところがある



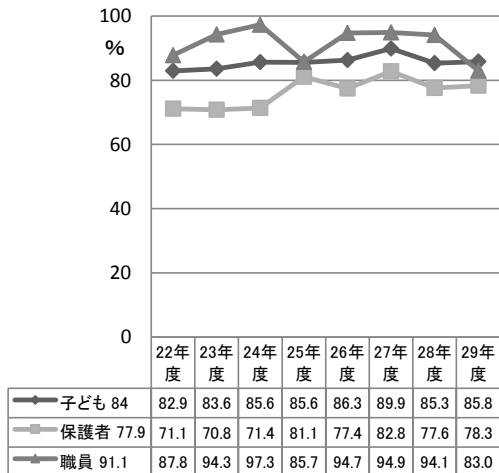
7 学級には、おたがいにルールを守り、協力する雰囲気がある



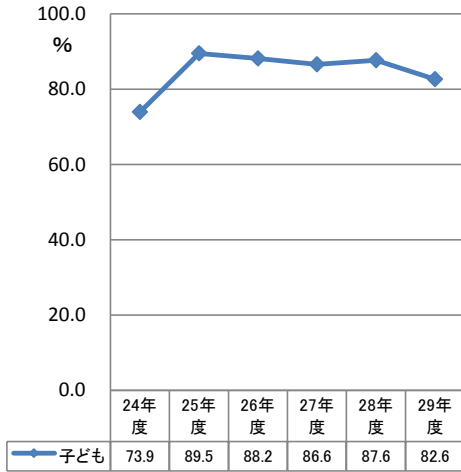
8 子どもたちは、自分の将来に対して、夢や希望をもっている



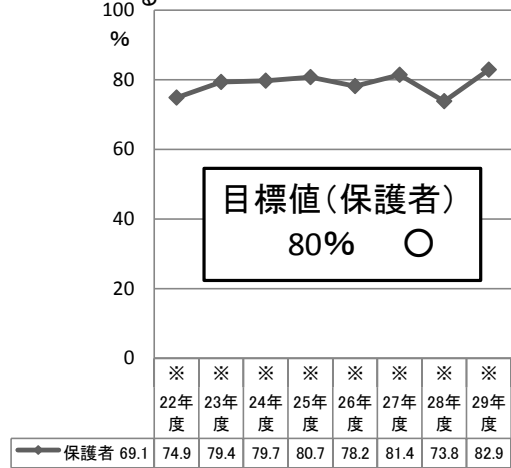
9 子どもたちには、学校に相談できる人がいる



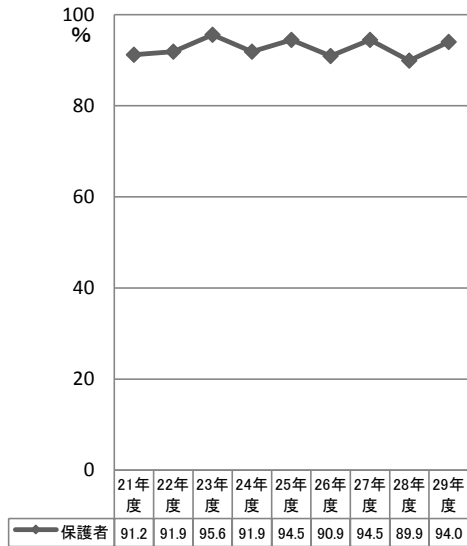
10 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある(4, 5, 6年のみ回答)



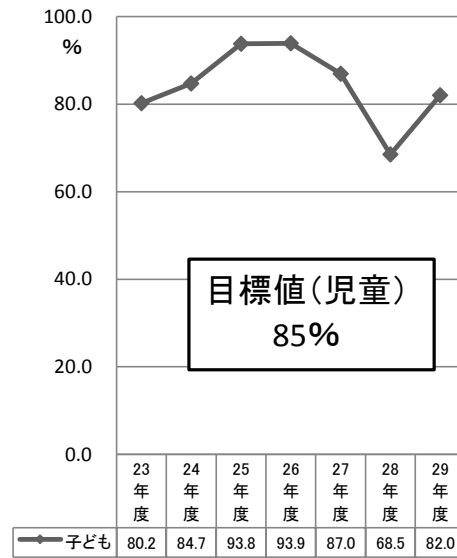
11 北小が目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている



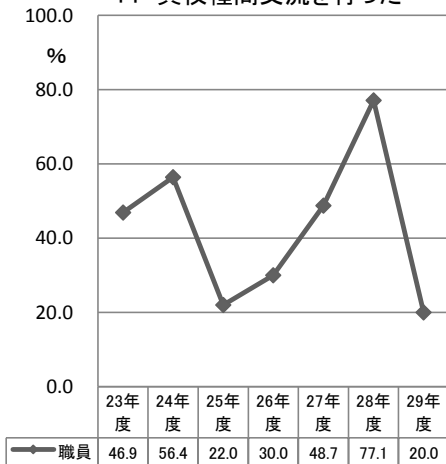
12 北小の先生は、子どものことを理解して指導にあたっている



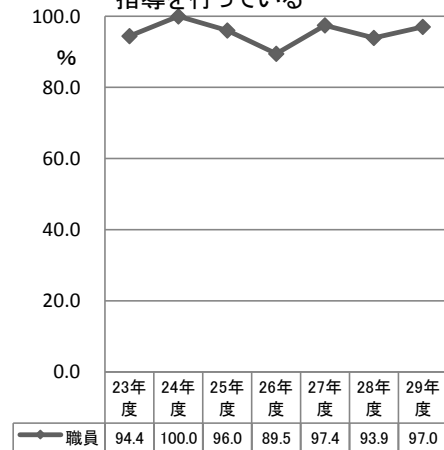
13 必読書を全て読み終えた(10月下旬現在)

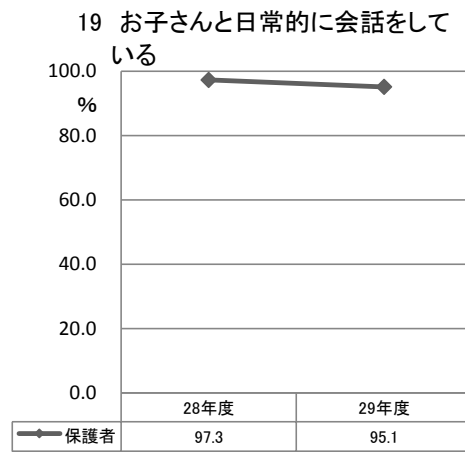
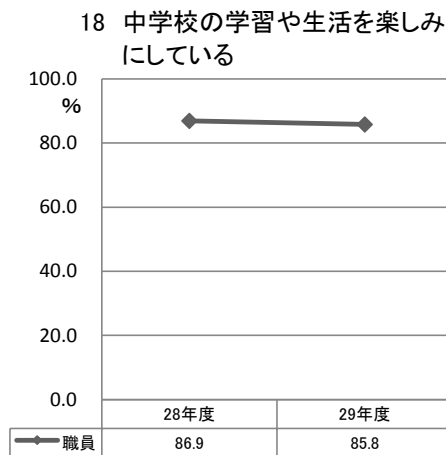
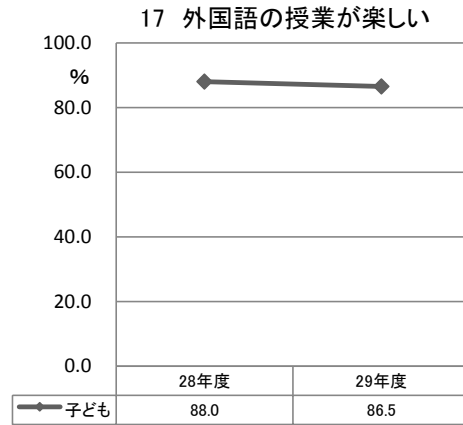
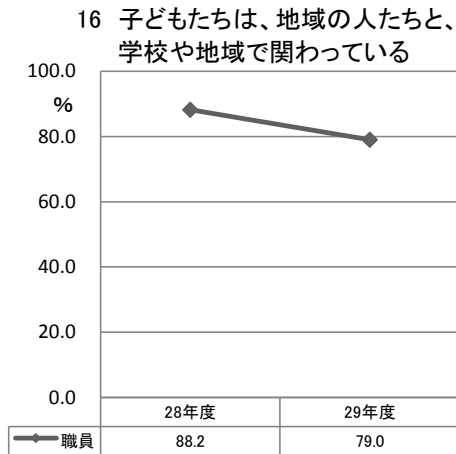


14 異校種間交流を行った



15 個に応じたきめ細やかな支援・指導を行っている





考察と対策(目標値を設定してある項目中心)

1 「子ども」の数値や「職員」の数値は改善されている。授業改善に取り組んできた成果が少しずつ表れている。しかし、保護者の数値は微減していることをみると、今まで以上に授業内容を充実してほしいとの願いを感ずる。

3 90%以上の数値は保持されている。しかし、学年や学級による数値の差があることも事実である。その原因が何にあるのか、また、楽しくないと思う要因は何かということ各学年により分析していくとともに、保護者とも協力をし、児童の思いに寄り添った指導をしていきたい。

5 「子ども」のあいさつへの意識は高まってきている。しかし、「保護者」「職員」の評価が低い。これは、児童はあいさつをきちんとしている意識はあるが、自分から率先してしたり、元気よくかえしたりしていないのが原因の一つと考えられる。高学年を中心とした取り組みを続けていきたい。

7 「子ども」「保護者」「職員」ともに評価が下がっている。本年度実施している対話活動では、お互いを認め合うことができる人間関係作りを目指しているため、学級の中で協力をしていこうとする雰囲気作りにもつなげていきたい。

11 昨年度の反省から、保護者のニーズに応えることができる学校だより等の作成に努力をしてきた。文書だけの報告だけでなく、各学年からも必要に応じ、保護者説明をする場(懇談会等)をつかい、学校の様子を適宜伝えることができた成果であると思う。

12 児童からの要望だけでなく、保護者からの要望(情報)を大切にしてきたことが、高い数値の評価となったと感じる。今後も、学校の様子と家庭での様子の情報交換を密にしていこうとすることで、子どもの個性や特性を理解し、学校生活での指導にいかしたい。